

山陽新幹線100系のバリアフリー設備の覚え書き

(2014年3月作成)

©作成・半沢一宣(はんざわ・かずのり)

*2012年3月16日限りで営業運転を終了した車両の記録です。

100系は1985年に登場した車両で、当初は2階建て車両(グリーン車と、食堂車またはカフェテリアと称する売店車)を連結した16両編成で「ひかり」として運転されました。

その後2000年3月10日限りで食堂車の営業を終了したのを機に、山陽新幹線区間の「こだま」用6両・4両編成への短編成化改造が始まりました。この改造の際、座席を横5列から4列に変更するなどのグレードアップも、同時に行われています。このうち6両編成の車両が、2012年の100系引退まで残存していました。

車いす対応座席(次ページの配置図で「H」と表記)

3号車の14番A席(瀬戸内海側)に車いす固定用のロープが設置されていますが、通路側に回転せず肘掛けも固定式のため、車いすから座席への乗り移りには不便です。

多目的室(次ページの配置図で「M」と表記)

3号車の新大阪寄り(中国山地側)にあります。改良型ハンドル式電動車いすには対応していません。

車いす対応トイレ(次ページの配置図で「W」と表記)

3号車の新大阪寄りにありますが、ベビーベッド(おむつ交換台)などを併設した多機能タイプではありません。

洗面所

3号車の新大阪寄りにありますが、車いす対応構造と言えるかどうかは微妙です。

公衆電話(次ページの配置図で「p」と表記)

4号車の博多寄りにありますが、車いす対応構造と言えるかどうかは微妙です。

飲料自動販売機

設置されていません。

受動喫煙の発生状況

1号車と6号車の2両が喫煙車です。

これらの隣の車両では、人が通り抜ける時自動ドアが開くたびに、および空調装置を介してたばこ煙が流れ込むことによって受動喫煙が発生していることが、営業列車での粉じん濃度測定調査によって判明しています。

乗車・調査の実施記録

2011年1月3日(月曜日)新大阪10時39分発広島ゆき「こだま743号」

(全区間で3号車14番A席に乗車。多目的室の内部の写真は、この列車で車いすの人が東広島駅で降りた直後に車掌の許可を得て撮影)

車両番号・3号車=125-3757(K60編成、製造年・メーカー名は未確認)

2003年に2&2シート化などのリニューアル改造を博多総合車両所で施工

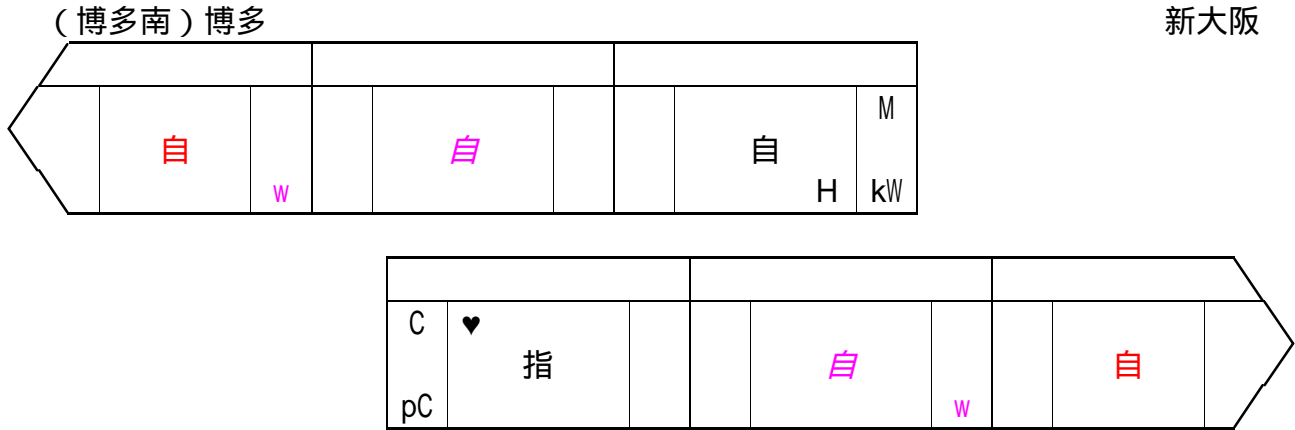
2007年11月10日(土曜日)新大阪7時01分発博多ゆき「こだま633号」

車両番号・3号車=125-3702(K59編成、旧V2編成から組み替え)

2003年に2&2シート化などのリニューアル改造を博多総合車両所で施工

次ページ以降に掲載した写真には、別の日時・列車で撮影したものも含まれています。

100系の車内設備の配置図



凡例

指 = 普通車指定席

H = 車いす対応座席

W = 車いす対応トイレ

P = 公衆電話 (車いす対応)

C = 車掌室

自 = 普通車自由席

M = 多目的室

w = 車いす非対応トイレ

p = 公衆電話 (車いす非対応)

k = 車内販売準備室

細字 = 受動喫煙が発生していない清浄な空気の禁煙車

斜字 = 受動喫煙が発生している禁煙車

(喫煙車または喫煙コーナーに隣接している車両と喫煙ルームがある車両が該当)

太字 = 座席で喫煙できる車両 (いわゆる喫煙車)



山陽新幹線 100系



100系の車いす対応座席
車いす緊締用ロープがあるのは
奥の14番A席のみ



100系の車いす対応座席の
車いす緊締用ロープ



100系の車いす対応トイレ



車いす対応トイレ内に掲出されている
腰掛便器の使い方の説明板
100系が製造された1980年代には
まだ洋式トイレが余り普及していなかった
0系の洋式トイレにも同じ説明板があった



100系の洗面所と
バギー(車内専用の車いす)格納庫



100系の公衆電話



100系の多目的室の外観



100系の多目的室の内部



折りたたみイスを跳ね上げた通常の状態。車いすのまま入れる広さが確保されている



腰掛の座面と背ずりを引き出し、折りたたみイスを下げ、簡易ベッドを構成した状態。
寝たきりの人の乗車や急病人の休憩には、この状態に対応



折りたたみイスの使い方の説明図



多目的室の内部に設置された
非常連絡用ブザー



多目的室の内部の空調吹き出し口
風量調整用の紐も見える



100系の多目的室の案内掲示